

ログインID

パスワード

[IDお知らせへ](#)[パスワードを忘れた方](#)

ログイン

会員登録は無料！こちらから

会員登録

[新聞ご購入のお申し込み](#)ヨリモを
はじめようヨリモって
なに!?

→はじめての方はコチラから!

▶テーマでチョイス

テーマで探そう
お好みコンテンツ!ジャンルや地域で分けた「テーマ」
でコンテンツが選べます。
気になるテーマを見つけて
コンテンツにアクセス!

今日の占い トップ1

★おひつじ座

[詳しく見る](#)

人気タイトル

1 長野・木島平村産米「村
長の太鼓判」を5人にプ
レゼント

2 ラジオ体操検定

3 教独

4 ヨリドリランキング:夏バテに
効く食べ物?投票受付中5 ヨリモ特製「借りぐらしのア
リエッティ」切手型ポスター&
フレーム切手を1000人に

↑エンタメ

坂本真綾さん、歌手デビュー15年を語る

このページのテーマ: [音楽](#) [コミック・アニメ](#) [イベント](#) [ウーマン](#)

30歳の誕生日に初の武道館単独公演



歌手デビュー15年目に入る坂本真綾さん。新曲「マジックナンバー」がヒット中で、声優としては昨年公開の話題作「エヴァンゲリオン新劇場版:破」など無数の人気アニメに出演。女優としても7年間、ミュージカル「レ・ミゼラブル」の舞台に立つなど多方面で活躍してきた。30歳の誕生日である3月31日にはベストアルバムを発表し、さらに同日、単独では初の武道館ライブを行う。

大いに充実した節目を迎えている坂本さんだが、実は最近までライブに恐怖感を持ち、声優も「向いていないのでは」と悩んでいた、と打ち明けてくれた。

「ライブは全部見えてしまう空間。怖かった」

歌手として歩み始めた当初から作詞も手がけてきた。16歳の学生時代から作詞を含めた音楽活動することによって「自分自身が救われてきた15年」だったという。

「作詞をすることで自分の中にある、もやもやしたもの初めて形に出来る。自分の内側と社会とがつながる唯一のツールだった。思春期にそういう表現方法が自分になかったとしたら、ほかにどうやって自分の個性を発見していたのかな……と思います。頭の中も整理できたし、人に自分自身というものも見せられた。それがずっと続いて今に至っています」

初の武道館単独公演が迫る。即日ソールドアウトの人気ぶりだが、昨年発売されたライブDVDの中では、本当はライブに恐怖感があり苦手だったと告白している。転機になったのは同年の全国ツアーだった。

「根本的に音楽が好きだし歌うのも好きなんだけども、多くの人前に出て行くということは別問題だったんです。ライブは表現方法としてイメージがわきにくく、どうやればいいのかという意味での怖さがあった。MC(トーク)の内容や振り付け・立ち位置をガチガチに決めて



段取り通りかわいく衣装を替えていくライブをやれば良かったのかもしれないんですけど(笑)、でも私が思う音楽のライブってそういう姿ではなくて、自分の色んなものが全部見えてしまう、ばれてしまう空間だと思う。だからこそ、いかに自分自身を受け入れ、そのまま出す覚悟があるかどうかが問われる。そこに行き着くまでに、すごく時間がかかった。去年は、なぜか今ならできるといふ不思議な予感があって全国ツアーを決めた。それでもやはり怖くて、『もし今回楽しいと思えなければもうやらない』というぐらいの気持ちでいました。でも、そのライブが終わった瞬間、スタッフと次のライブの話をするぐらい、一つ殻を破るターニングポイントになったんです」

会場に詰めかけた観客の温かい拍手と声援の中で、何かが変わった。

「大勢と(対する)私ということにすごくプレッシャーがあったんだと思う。自分にいつも自信がないし、アーティストって格好良くなければいけない、人より特別でなければいけないのでは、という気持ちがあって。私ってすごく普通なのに、みんながいいことばかりイメージしていたらどうしよう、みたいな(笑)。でも、その普通であるとか自分のことを自分で受け入れることが一番大事で、(観客が)大勢かどうかは関係なかったんです。ただそれだけのことだったんだって今は思います」

「正直に言うと、恐怖や不安が全く消え去ったかという、人間なのでそういうことはないと思います。次の武道館にもプレッシャーはあるし、前回思い通りのライブになったからこそ欲も出て、自分に課すハードルも高くなる。そういう怖さはあるけれど、逆にそれはたぶん、ないとはいけないので(笑)。前みたいな得体(えたい)の知らない怖さじゃなくて、自分でいろんなものを見据えることができている上での緊張感だと思っています」

欧州での一人旅で気付いた“自分の居場所”

ライブへの苦手意識を克服した坂本さんは、このツアー後の昨年5～6月、多忙なスケジュールに何とか都合をつけて休暇をとり、ヨーロッパに出かけた。パリ、ウィーン、イタリアの数都市など欧州8か国を5週間かけて電車で回る一人旅だ。この旅は、坂本さんに豊かなインスピレーションを与えることになった。初の作曲となった「everywhere」が生まれたのも、旅先でだった。

「自分にフィットする場所へのあこがれから、ここだ!と思える特別な街に出会えるんじゃないかと思いつきながら旅をしていた。でも歩けば歩くほど、なんだかそういうことじゃなくて……。何が足りないかを数えるクセがあるけど、実は自分が普段いかにいろんなものを手にしているかに気付く旅になっちゃったんです。一人だからこそ周りの人の細やかな気持ちに気付いたり、家族をより近く感じたり。普通のことがどんなに自分にとって掛け替えがないかをひしひしと感じた。そして自分の居場所というのは、どこかにあるのではなく、すべての場所がそうなり得るはずだと思えてきたんです。途中から、どの国でも自分にとって地続きに感じられました。だから、すべての場所が帰れる場所、私の向かっていける場所という意味で、『everywhere』なんです」

「曲が浮かんだのはイタリア・ローマ郊外の民宿のような所。山の中で、静かな夜にピアノを弾かせてもらって遊んでいるうちにフッと出来ちゃって慌ててレコーダーで録音したのが曲の原型です。そこには19歳のお年寄りの犬がいて、オーナーから犬との留守番を頼まれた。本当に高齢で変なせきが止まらないワンちゃんなんですけど、でもその子がずっとピアノを弾いている間、足元にいてくれて。何だか、その子のおかげで(曲が)フッと出来た気がするんですよ。かわいそうなんですけどすごく穏やかで、たぶん愛情をいっぱい受けて育った子で。生きるということ、そのものが旅だとしたら、やっぱりこの子は遠からず自分の旅を、生を全うするかもしれない。それは明らかですけど、これだけ愛されて育った子がもし自分だとして、何が言いたいかな? そう思った時に『そんなに遠くに行くわけじゃないよ』って言いたくなかった。生きるということと死ぬということはいつもセットで、一緒に見る必要があるんだと思



坂本真綾さんのベストアルバム「everywhere」

初めて作曲したタイトル曲も収録。

(初回盤・通常盤ともに税込3,780円)

う。この子のことをすごく心配している飼い主さんの顔を見ながら、きっと『遠くに行くわけじゃなくて、いつもそばに気持ちはあるよ』と。……そんな、いろんな思いが干渉し合って出来た曲です」

武道館公演のタイトルに「ギフト」と付けたのも、旅で得られた思いを込めている。

「武道館ライブは私にとって365日のうちのすごく大事な1日だけ、でも明日もあさっても、すごく大事なことに変わりはない。その意味で、当たり前のように全部リボンをかけていくような……そういう思い。ライブの中で、みんなにハッキリと提示できるかはわからないけど、私の中ではそんなテーマを持って臨みたい。特別に高価な何かという意味ではなくて、普通のことが全部ギフトなんだということをおわせることができたらいいな」

菅野よう子さんは“母と姉の間”みたいな存在

デビュー以来、プロデューサーとして坂本さんと深い関係を築いてきたのが作曲家の菅野よう子さん。2008年、久々に組んだ「トライアングラー」(テレビアニメ『マクロスF』オープニングテーマ)の大ヒットで、坂本さんと菅野さんのタッグがいかに強力かを改めてファンに示した。

坂本さんにとって、菅野さんはどんな存在なのでしょう。

「純粋に菅野さんの音楽が好きですし、ああいう人のことを本当に天才っていうんだな、と思う。底知れない何かがある人なので……尊敬もしているし、好きなアーティストです。ただ、初めてレコーディングをした15歳当時から知っていて、子どもだった時の感覚が強いので、単なるアーティストというより本当に母でもない姉でもない、その中間みたいな(笑)。同じ女性としては人生の先輩として見てきました。彼女のスタイル、仕事に向かう背中をずっと見て育った9年間は大きいですね。菅野さんご自身から手取り足取り“ああしなさい、こうしなさい”と言われたことはほとんどないですけども、菅野さんがやっているものをずっと見続けてきたのは一番いい勉強だった。色んなことに気付かせてもらってそれが後に生きて、いっぱい助けてくれたなあと思います」

声優・女優として独自の存在感。「レ・ミゼ」「エヴァ」「FF」……

子役として活動を始めた坂本さん。演技力にはますます磨きがかかり、舞台女優としては03年からミュージカル「レ・ミゼラブル」でエポニーヌ役を務めてきた。実写ドラマの日本語吹き替えの仕事も多数こなし、この3月からは韓国ドラマ「華麗なる遺産」(フジテレビ)でコ・ウンソン(ハン・ヒョジュ)の役を担当する。



しかし、特にファンを広げてきたのは、アニメ声優としての15年を超える活動だろう。「天空のエスカフローネ」など無数の作品で主役や重要な役を担当。昨年の映画「エヴァンゲリオン 新劇場版・破」では、再構築される物語の鍵を握る新キャラクター、真希波・マリ・イラストリアス役に抜てきされて注目を集めた。大作ゲーム「ファイナルファンタジーXIII」でも、りりしい女性キャラクター・ライトニングをクールに演じたのが記憶に新しい。

今春も「荒川アンダーザブリッジ」(4月4日深夜1時35分よりテレビ東京系にて放送予定)のニノ役、「四畳半神話大系」(同月フジテレビ「ノイタミナ」ほかで放送予定)の明石さん役、劇場アニメ「トライガン - TRIGUN Badlands Rumble」(同24日全国公開予定)のアメリカ役など注目作への起用が続く。日本アニメ界でも独自の存在感を見せる代表的声優の一人だと言えるだろう。

坂本さん本人の意識として、表現活動の軸になるのは歌手？それとも声優？

「全部つながっていて一体なんです。色んな役を演技していることが作詞の場面にフィードバックしてくることもあれば、歌っていることが演技に生きたり舞台に生きたり。全部が相互作用でちよつとずつ自分を築き上げてくれた感覚があるので、どれがなくなってもバランスが崩れる。ただ、演じていて何が快感かって言えば、

自分にはない人生を一時的に楽しめる。私自身からは決して生まれない言葉が出てきたり、現実にはあり得ない設定で生きられたりという時に演技の面白みってあるんだという気がする。自分にはないものになるんですね。だけど音楽は、やればやるほど自分の奥深くに入っていく感じ。作詞もそうです。両方あってすごくバランスがいいな、って自分では思います」

「声優が楽しくなったのはここ数年なんです」

明るい女の子からクールな悪役までこなし、ますます声優としての演技は凄(すご)みを増している印象がある。ところが、本人に声優の仕事について聞くと意外な答えが返ってきた。

「私自身(声優の仕事が)すごく楽しくなったのは、実はここ数年の出来事なんです。初めてテレビアニメのヒロインをやらせていただいた時はすごく難しかったし無我夢中でやっているだけで終わってしまった。それ以降もたくさんやらせていただきながらも、なんかいまいち、つかみきれなくて。難しいなあという思いのほうが強かった。自分は声優という仕事には向いてないなあと思いつつやっていた時期も実はあったんです。それがある時、今までやったことがない役をポンと振られた時に、なんだかすごく自由に、急に何か開き直ったんでしょうか。弾けて、すごく楽しくなった。そこから不思議に色んな作品の役をいただいて、どんどん新しいキャラクターを増やしていけるようになりました」



ターニングポイントとなったのは、主役・藤岡ハルヒ役を務めた06年のテレビアニメ「桜蘭高校ホスト部」という。わずか4年前の作品だ。端から見れば、それ以前の作品が「声優に向いていないと思いつつ」の演技とはとても思えないが、これは坂本さんの飽くなき向上心による気持ちなのだろう。

「実写の人間に(セリフを)当てる洋画の吹き替えと比べ、アニメというのは独特の技術が必要だと私は思います。でも(『桜蘭〜』では)そのことを頭で考えるよりも前に感覚的に演じられた。自分自身であり型にはまらなくなったと言うんでしょうか。とても自由な気持ちで、演じることを心から楽しめたんです」

「実はようやく始まったという感じ」

結果として声優としても演技の幅を広げた坂本さん。30代に入り、今後はどんなアーティストになっていくのか。



「色んなことにチャレンジして模索したのが20代だった。29歳で前回ツアーを終え、昨年のアルバム『かぜよみ』でやっと一つやり遂げた感があつて、実はようやく始まったという感じに近いんです。『30歳からが一番楽しいよ』と言う先輩の30代がたくさんいますが、そんな予感はありません。20代後半から色んなことが急にワッと楽しく面白くなってきた感じがある。これまでは蓄積の期間で、やっとこれからそれを自分でかみ砕いた形で表に出していけるところに移行できたのでは。活動としては、たぶんこれまでと大きく何かを変えていくということではなくて。でも、トータルとして自分ができる歌、詞も含めて音楽というものがやっと見えてきたところなので、それをさらに深く掘っていききたい。何か大きなところへ広げていくイメージよりも、根をもっともつと深く下ろしていききたいと思います」

(取材／文・ヨリモ編集デスク 大和太郎)

【プロフィール】

坂本真綾(さかもと・まあや)

1980年、東京生まれ。幼少より劇団の子役として活躍。15歳から本格的に音楽活動を開始。09年1月、初のホールライブツアー(東京国際フォーラムなど)を実施。2010年、CDデビュー15周年を迎え、武道館ライブも決定。音楽以外でも舞台(03年から東宝ミュージカル「レ・ミゼラブル」エポニーヌ役)、声優、執筆(エッセイ集『アイディ。』やコラムなど)、ラジオパーソナリティーなど多方面で活動。国内のみならず世界各国から支持を受ける。フォーチュネスト所属。

公式サイト「LD」:<http://www.jvcmusic.co.jp/maaya/>

坂本真綾さんサイン入りポスターをプレゼント！

坂本さん初のベストアルバム「everywhere」の発売を記念した非売品ポスターにサインを入れ、抽選で10人にプレゼントします。[ご応募はこちらから。](#)

[↑ エンタメへ戻る](#)

[▲ このページの先頭にもどる](#)